

9/11

# 北風新聞 (社会面)

石川県が先月刊行した二〇〇七(平成十九)年度版の環境白書「写真下」で、白書の印刷を請け負った業者が、環境にやさしいとされる印刷方法を取ったことを示す表示「同上」とは異なる仕方で製作していたことが十日、分かった。指摘を受けた県は白書を回収し、表示を削除して白書を再刊行するとともに、業者に対して指名停止の行政処分を検討している。

表示と異なる方法で環境白書を製作したのはハクイ印刷(羽咋市)。

県によると、環境白書は当初、裏表紙に有害物質を含んだ水を使用しない印刷法「水なし印刷」で製作したとの表示があった。しかし、ほかの印刷業者からの指摘を受けた

## 「エコ印刷」は誤表示

間伐材配合再生紙、大豆油インキを使用し、環境にやさしい「水なし印刷」を採用しました。



### 県環境白書



実がないことを確認した。同社は白書を四百二十部製作した。県はこれまで各部署や県議会などに配布した百三十二部を回収し、印刷法などの誤表示を削除した白書を再刊行した。

業者「現場と営業意思疎通不徹底」

ハクイ印刷は北國新聞社の

県が同社に問い合わせたところ、実際にこの印刷方法を利用した事実がないことを確認した。

## 県、急ぎよ回収 再刊行

の意思疎通が不徹底だった。今後はこのようなことがないように努める」としている。

県の環境白書をめぐり、〇六年度版を発刊した昨年には製紙会社による再生紙偽装問題があり、〇七年度版は古紙配合率100%を示す「R100」の文字を削除して刊行した経緯があった。

再生紙偽装問題をはじめ、食材の産地をめぐる偽装表示などが相次ぐ中、県は「業者を信じるしかなく、今以上に指導を徹底したい」としている。

取材に対し「水なし印刷ができる設備は整っているが、現場と営業